

長崎大水害から30年

今年は、昭和57年（1982年）7月23日に発生した長崎大水害から30年となります。長崎大水害は、死者・行方不明者が299名にものぼりました。この30年で見ると、わが国の豪雨災害の中でも最悪の犠牲者を出した未曾有の災害となっています。このときの激甚な被害の状況と、その後の取組みについてご紹介します。

各地で同時に多発した被害

大水害による惨状の第一報を伝える昭和57年（1982年）7月24日の長崎新聞

提供：
長崎新聞社



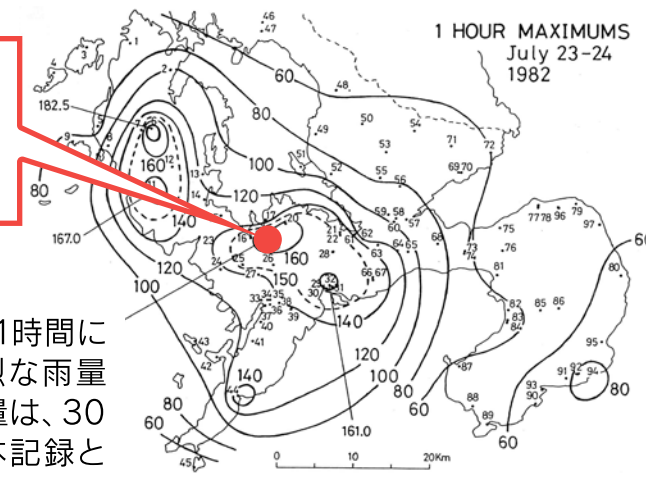
一瞬のうちに37名もの尊い命と財産を奪った川平地区の土石流災害（浦上川水系）

中島川の氾濫で一部流失した眼鏡橋

被害をもたらした日本記録の豪雨

長与町役場
187mm/時
(日本記録)

長与町役場では、1時間に187mmもの猛烈な雨量を観測。（この雨量は、30年後の今でも日本記録となっています。）



最大1時間降水量 (mm)
出典：長崎大学学術調査団報告書

復旧・復興の歩み



中島川の洪水を調節する本河内低部ダムの概成（平成23(2011)年度）



中島川・眼鏡橋の現地保存のためのバイパス水路の完成（平成18(2006)年度）



日見峠芒塚川付近の国道34号の改良と砂防事業の完成（昭和61(1986)年度）



長崎県河川砂防情報システム（ナックス）を通じた雨量・水位等の情報提供による防災活動の支援（平成16(2004)年度末全県公開）
<http://www.kasen-sabo.pref.nagasaki.jp/>

これからの取組み

東日本大震災等の大規模災害を受けて、施設整備などのハード対策と防災情報の提供などソフト対策を組み合わせ、被害の最小化を図る「減災」の考え方を実現することが必要です。

このため、「自助・共助・公助」のバランスや地域のつながりの重要性をふまえて、自然災害等に強い県土づくりと私たち一人ひとりの防災意識の向上を図る取組みを進めていきます。

シンポジウムを開催します！

長崎大水害30年シンポジウム

「30年前を忘れない ～長崎大水害の教訓を未来へ～」

長崎大水害の教訓を未来へ伝えるため、当時の被災状況と復旧復興の歩みを振り返り、近年頻発する大災害や、社会情勢の変化を見つめます。大災害に備えて、自然と私たちの関係を再確認し、日頃からどのように取組むべきか、一緒に考えましょう！

ぜひ
ご参加
下さい！

日時 7月21日(日) 午後2時～午後5時
場所 長崎ブリックホール国際会議場（長崎市茂里町）
申込み 6月20日(木)～7月20日(金)
問合せ 県の河川課 ☎095-894-3083